

平成28年度 学校評価実施報告書

幼稚園名(京都市立明德幼稚園)

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力・豊かな心・健やかな体	保育の改善・充実	・遊びが充実するための環境構成や援助の検討・実践。 ・週案の充実、評価を生かした有効な活用と積み	・幼児の心の動きをとらえた事例研究。 ・「子どもは自分で好きな遊びを見つけていますか」
	幼小接続の視点	・「親子絵本ノート」の活用を見直し絵を含めた有効な利用。 ・小学校との交流や連絡会の充実。	「親子絵本ノート」の活用度を定期的に検証する。 ・「絵本を見ることを楽しんでいますか」
	心と体・生活習慣	・家庭との連携をしながら、個々に応じた援助をし、生活習慣の定着を図る。 ・体を動かす心地よさを感じよう保育を推進する。	・生活習慣の週案への明記。 ・運動遊びを保育に取り入れる。 ・生活習慣の家庭での様子のアンケート
園独自の項目	信頼関係・折り合い・自己肯定感	・信頼関係を基盤とした自己有用感。 ・発達に応じた葛藤体験。	・幼稚園に喜んで登園しているか。安心して、生活しているか。 ・友達と遊ぶことを喜んでいるか。
	学校運営協議会「どんぐりーず」のさらなる活用	・園行事・保育の流れとの兼ね合いを考えた年間計画の立案と有効な運用。 ・地域との連携の推進。	・「学校運営協議会“どんぐりーず”との連携した幼稚園の行事に喜んで参加していますか。」 ・地域との連携の推進。
	子育て支援の推進	・教育相談の取組の充実。 ・地域の子育て支援センターとしての役割の充実と情報発信。	・ほっこり子育て広場の実施回数(在園児) ・教育相談の参加人数。
	預かり保育の充実	・指導計画の作成・見直し ・参加人数。	・記録等による連携。 ・「喜んで参加していますか」 ・保護者が「有効に活用できているか」



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年10月24日
	評価者・組織	教職員
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
・「子どもが好きな遊びを見つけているか」については、年長・年少とも「そう思う」「大体そう思う」で100%になる。 ・「親子で絵本を見ることを楽しんでいるか」の、「楽しんでるが」「そう思う」「大体そう思う」で年長96%、年少97%である。	魅力的な環境、意図的な環境について意識的にしている。そのことで好きな遊びを楽しむ姿につながっているであろう。 「親子絵本ノート」は、活用されており、子どもの思いを聞きながら親子でゆったりと絵本を選ばれている姿もある。有効に活用されているかの検証が十分ではない。	今年度の園内研究のテーマを意識し、園内研究をさらに充実させ、実践していくように努力する。 「親子絵本ノート」の検証が不十分であるので、今後は定期的に行い、さらに有効に利用し、読み聞かせや絵本への関心を高めていきたい。
生活習慣で「自分のことは自分でしようとする」については「そう思う」「大体そう思う」が、年長96%、年少89%であった。	発達年齢に応じて、自分の身の回りのことは自分でするように努力しようとしている。 より必要な手立てを検討	より身の回りの始末や生活習慣が身につくような環境を考えたり、家庭とも連携し、必要な手立てや援助を探っていく。
アンケートとしては年少が「友達と遊ぶことを喜んでるか」としては「そう思う」「大体そう思う」100%で、年長は「友達の思いを聞こうとして遊んでいるか」で96%であった。 地域と連携した行事への参加は「様々な体験に喜んで参加しているか」という項目で年長・年少とも「そう思う」「大体そう思う」が100%であった。	発達年齢に応じて、友達のかかわり方の育ちが見られてきているところである。 その姿にご理解いただいていると感じられる。	友達のかかわりについて、さらなる育ちのために、保育の様々な場面での事例研究、検証を今後も引き続き深めていく必要がある。
教育相談の実施回数を年度途中で増やすことで、より子育て支援を充実させようとしているところである。年度当初の参加人数は昨年度より少ないが、情報発信は広がっている。	様々な体験による保育に、喜んで参加して肯定的にとらえていただいている。保育の流れとの兼ね合いを十分検討しながら入れていくことが必要である。 情報発信する機会・場を新たに増やしたことで、本園の子育て支援への関心が少しは増えた多々ではと思う。しかし、参加者は微増なので方策を考える必要がある。	地域との連携がより保育や子どもの育ちに生かせるように、検証していく必要がある。
アンケートによる結果は、「そう思う」「大体そう思う」が、年長100%、年少94%であった。	子どもたちの喜んで参加している。保護者にとっても有効である。1か月単位の申し込みがしにくい方がある。保育とのつながりを生かすための担任との連携が課題である。	ホームページでの発信のほかに、地域への直接的な発信など、より関心をもってもらえるよう方策を検討する。 1か月単位の申し込みには、変更に対応している。ノート活用、管理職を通じての伝達などによって、担当教員との情報共有をする。

学校関係者評価	
評価日	
評価者 (いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
・楽しんで園生活を送っている様子が見られる。	・協力できることがもっとあれば、サポートしてきたい。
・「親子絵本ノート」の取り組みは大切だと思う。より充実させてほしい。	・運営協議会の「ころころ」の読み聞かせとの連携もしてきたい。
・家庭生活での子育ての意識を高めていくことも大事である。	・幼稚園が家庭との連携を深めていってほしい。
・幼稚園で育っていることを保護者に伝えていくことが大切である。	・地域でも協力できることはしていきたい。
・運営協議会による様々な行事に喜んで参加していただき喜ばしい。	・さらに充実してけるよう協力してきたい。
・参加者数は減っていることには憂慮する。方策を考える必要がある。	・協議会としてできることがあれば積極的に取り入れていく。今後具体的に検討していく必要がある。
・就労支援もあり大変だろうが、子どもも保護者も喜んで参加してもらっていることは有意義である。	・人員等協力できることがあれば、サポートしてきたい。

平成28年度 学校評価実施報告書

幼稚園名(京都市立明德幼稚園)

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
	評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力・豊かな心・健やかな体	保育の改善・充実	園内研究から協議を深め、まとめていく中で、具体的なキーワードを見出し、保育の見直しに生かしていく。	「ありのままを出して遊んでいる」「自分なりのイメージを膨らませて遊ぶことを楽しんでいる」等
	幼小接続の視点	「親子読書ノート」の活用を推奨し、定期的に利用状況を確認する。今年度の交流を明確なねらいのもと進めていく。	「親子読書ノートは活用できているか」「小学校・中学校と連携や交流を図っている」
	心と体・生活習慣	家庭との連携をより密に図り、子どもが自分でできるようになったことなど共有していく。	「ご家庭では生活習慣の確立や自立に向けて意識しながらかかわっているか」
	信頼関係・折り合い・自己肯定感	子どもの気持ちの寄り添い、自己発揮でき、自信となる援助、友達とのかかわりの中での心の葛藤などをみとめていく。	「子どもは学級や学年の友達と遊ぶことを楽しんでいる」「担任以外の教職員にもサポートしてもらっている」
園独自の項目	学校運営協議会「どんぐりず」のさらなる活用	学校運営協議会や地域との連携を、幼稚園の行事に取り入れ協力してもらう。	「子どもは学校運営協議会や地域と連携した行事を楽しんでいた」
	子育て支援の推進	・ひよこ組の回数や時間の見直し・園庭開放の継続 ・子育て支援から入園する園児数の把握 ・ほっこり子育て広場の継続	子育て支援、たまご組・ひよこ組の登録者数・入園者数の確認。
	預かり保育の充実	・内容の充実、冬季の季節感のある遊びを取り入れる。 ・利用のにおいて変更の手続きの定着を図る。	「参加者数」 ・アンケート「預かり保育は保護者にとって有用であったか」「子どもにとって有効であったか」



自己評価		
・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	評価日	評価者・組織
アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
年少児・年長児とも100%「そう思う」「大体そう思う」となっていた。	子どもの興味関心、主体性を大切に、子どもの心に寄り添った保育についての理解が得られているのであろう。	研究テーマを分析まとめることにより、教師の援助や環境構成の見直し保育の充実につなげていきたい。
「親子読書ノート」の活用については、ほとんどのの方が活用できている年少児97%に比べ年長児は73%にとどまる。	年長児は昨年度「親子読書ノート」の活用をせず、今年度から毎週絵本貸し出しに利用を始めているので、利用の定着度が低かったと思われる。	年長児には、親子読書の大切さを伝えとともに、年少児には引き続き意欲的に取り組めるよう意義を伝えていきたい。
年長児は100%、年少児は96%が「そう思う」「大体そう思う」となっていた。	年長児は、就学を前にして、各家庭でもかなり生活習慣の自立に意識してかかわっておられることがうかがえた。年少児も進級を前に子どもも意識していると思われる。	家庭との連携を密に図り、子どもの育ちを共有したり、ともに手だてを考えたりする。
年少児・年長児とも100%「そう思う」「大体そう思う」となっていた。	年長児・年少児とも年度の後期になって友達とのかかわり方あがったり深まったりしている。子どもたちが友達と過ごす楽しさを十分感じてきているからであろう。	一人一人を大切に、友達とのかかわりながら葛藤経験や折り合う心の育ちを促すようかかわってきたい。
年長児は100%「そう思う」「大体そう思う」となっていた。年少児は96%であった。	年長児は、運営協議会の行事お茶会・ころさんさんの読み聞かせなどすべての行事にかかわっている。年少児はお茶会へのかかわりが1回だけであるからと思われる。	運営協議会の組織が一般の保護者にはわかりにくい部分がある。整理し部会の組織改編も検討する。
ひよこ組からの入園は、転居以外は100%。他施設からも就園があるが、ももとの登録者数が少なかったため園児数が減少する。	・ひよこ組は、曜日や時間を増やしたことは満足されている。 ・入園(3歳)までの親子のかかわりの大切さを発信する必要がある。	・情報発信を確実にし、たまご組をより充実させる必要がある。
年長児は100%「そう思う」「大体そう思う」となっていた。年少児は96%であった。	・冬季ならではの、教育時間には経験できないような遊びを取り入れることにより、子どもも保護者も満足していた。 ・変更方法についてもほぼ定着した。	・預かり保育の内容を知りたいという声もあったので、次年度は発信の仕方を検討する。



学校関係者評価	
評価日	評価者 (いずれかに○)
学校関係者による意見	○学校運営協議会 学校評議員
子どもたちがいつも生き生きとした姿が見られてうれしい。	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策 よりサポートできることはないか検討し協力していきたい。
「親子読書ノート」の取り組みは大切だともうので積極的に活用できればよいと思う。	絵本については「運営協議会」の「学び部会」取り組みともかかわっているが、生かし切れていない部分もある。方策を検討する。
生活習慣は自立するうえで大切である。しっかり身に着けていってほしい。	家庭との連携をより深め、生活習慣大切さを伝えてほしい。
集団での育ちの大きさを感ずる。	幼児について理解を深めて、できることがあればサポートしていきたい。
運営協議会が有効に活用でき喜ばしい。組織については園でより有効に機能できるように検討を望む。	組織について具体案を検討していきたい。
園児数の減少には憂慮する。施設面でも改善する必要がある。	できる限り協力したい。園の施設改善などでも尽力していきたい。
預かり保育が有効に利用されていることは喜ばしい。	何かできることがあれば協力する。

3 総括・次年度の課題

- ・保育の充実を図るために次年度さらに研究を充実していきたい。
- ・立地を生かし、幼小連携をさらに進め、幼稚園の教育について理解が深まるよう可視化し、発信していく接続期の教育を充実させていきたい。
- ・ホームページの発信の頻度を増やし、情報発信を充実させ、公立幼稚園の良さをアピールしていきたい。
- ・就労支援をする中で園運営について、PTAの在り方について検討する必要がある。
- ・学校運営協議会の協力をさらに有用なものにしていきたい。